

1953年4月18日

第2号

研究通信への期待

喜多野 靖一

本村落社会研究会がりよによ活動
しはじめたことを心からお品がといた
ます。研究通信への期待を述べてお
きは、研究のための欠くことの出来ぬ要件
だと思います。研究活動との成果確
保のための基礎的な足りらしさは、奥
はこういうところにあるのではなくで
しょうか。誠意に基づく隔離のなり相
互の科学的検討をもつした確の上に力
を建てられて効果を發揮するとと思いま
す。こういう意味では、この研究通信
こそは年報や年次大会と並んで、会の
発展にとり甚だ重要な役割を荷つてい
ることを非常にうれしく思いました。炉
端であぐらをかいて語りあつてける氣
分を感じます。素人の印刷技術の拙け
ことは敵乏ないがこれもかのつて村居
所邊の一興だと云つては、アバタモ工
クボの炎に墮しましょうか。けむとも
せんがこだわりなく意見をのべあう
ことは、今后この会を発展させてゆく
上の大切な要件だと思うのです。また
委員会を幾つか出来て組織的活動にい
おりよ入るところですが、こゝでの討
議や決定などの広い公開性と、会員全
体への渗透が、また会員の積極的参与

村落社会研究会研究誌

No. 2

本部 東京都文京区大塚三丁目
二四 東京教育大学社会学
町一 東京大学文学部社会
学研究室

と親和のための欠くことの出来ぬ要件
だと思います。研究活動との成果確
保のための基礎的な足りらしさは、奥
はこういうところにあるのではなくで
しょうか。誠意に基づく隔離のなり相
互の科学的検討をもつした確の上に力
を建てられて効果を發揮するとと思いま
す。こういう意味では、この研究通信
こそは年報や年次大会と並んで、会の
発展にとり甚だ重要な役割を荷つてい
ることを非常にうれしく思いました。炉
端であぐらをかいて語りあつてける氣
分を感じます。素人の印刷技術の拙け
ことは敵乏ないがこれもかのつて村居
所邊の一興だと云つては、アバタモ工
クボの炎に墮しましょうか。けむとも
せんがこだわりなく意見をのべあう
ことは、今后この会を発展させてゆく
上の大切な要件だと思うのです。また
委員会を幾つか出来て組織的活動にい
おりよ入るところですが、こゝでの討
議や決定などの広い公開性と、会員全
体への渗透が、また会員の積極的参与

十
音
太
郎
島
壱

研究会が出来た。村
の人々はどんな期待をも
ち得るであろう。村の
人は村がよくなること
そのためにはどんな條件
や制約かのそれがねはな
らないが、それにはどうし
たらいいかを度量だらう。
それに対する答は、例えれば農村の民主

力と差違をもつてする建設的相互作用
が対応に必要あります。」「研究
通信」はこういふふる要件をどう之
る役割を負つておるものとして、私は
こめに大きな期待をかけておるものと
します。そしてしお互の問題を出し、研
究の進行を語り、希望を述べ、意見を載
めせてゆくようにしたり、アメリカ農
業社会学会の機関誌ルーラル・リシン
プロジェクトの創刊号に付ける編輯局の宣言
に、本誌は自己の発見をもつて本会に
寄手しようとする如何なる人にとつて
も公開されてゐるアオーラムなど古
いその高い科学的水準を維持することが
編輯局の責任であると云つていますが
これらは年報と年次大会とこの研
究会の分野では、時として問題の整
理、連絡を欠き、方法の混亂を生んで
いるようになります。また各分野
の緊密な協力と批判によつねば解決し
難い改善に達した問題があるかと思う
と、未だまるで手を附けられていな
い問題があります。こうした現状を整理
し、それに大きい発展の道筋をつけて
めが國の村落社会研究の科学的水準を
一步づ引上げてゆくことを共同の目
標としてゆくには、会員の親和的な目

に上る農業の國家投資の必要と公
開農地の半数との半数とが極めて一般的
な現象には手をひかれている。けれども
どうしてかその本質的ではなうなりといふ
う事は、要するに村の人々の生活の中から
流れ出して、徐々に納得せしめる迄
には大分時間がかかる。

村落社会は必ずしも政治論的現象やイ
デオロギーを論ずる場所はない。しかし
いへん村落生活の巨細の現象に問題
として村の人々が考えてりる様々な問題
に科学的なメスの力をもつてかめること
か出来うる筈である。成程の才一歩である
うと思う。(大阪市立大)

村落社会研究会 への期待

山 本 登

村落社会の研究が日々の村落につ
ての調査資料に基づき行われるとすれば
数万に及ぶ日本の村の研究が共同で
ある。その多くが共同への第一歩
をみださうとするところにこの会の大
きな意味がある。その出発にあたつ
て、この研究会に次の二つの点を期待
したい。

第一次調査結果が調査方法に規定

され、しかも多数の研究者による多數
の村落に関する資料が比較的検討さ
れねばならないとすれば、統一的であ
る同時に比較可能な結果をたら
す調査技術の確立への努力が第一の任
務である。従来の研究はあまりにも調
査者の任意と主觀によつて色づけられ
てはいかなかつたが、そして又比較や相
対を試みるにあまりに文學的な記述を
していったのではないのか、オニに、吾々の研究はあくまでも現
実的であり予測的ではなくはならぬ
ことである。村落の科學的研究は実し
て過去の復元をめざすものではない。
そして予測のためにそれに応じた研
究の方法への反復を考えねばなら
ない。従来の村落研究が、取り残され
た珍らしい村落に指向されて、現代に
生きていける平均的な村落があまりにも
無視されていい方ではないだろうか。
互に共通する以上の二点、及びこの
研究会に單なる同様の往來往來で
なく、新しい方向を打ち出すための
基礎作業の遂行を期待している。
一九五三年・三・十九 大阪市立大

年報編輯について

年報については、第一号でお知らせ
しましたように、時潮社との協合がま
とまり、同社社主大内義明氏が好意的
に援助して貰うことになりました。編
輯委員の意図する編輯方針を大体う
けいれて貰いましたので、さらに具体
的に計画を練つて、次号で御報告致し
ます。

なお内容及び執筆者について、会員
諸氏から左記のごとく御意見をおよせ
りたゞました。編輯委員会とりたしま
しては、この意見にもとづりて、四
月上旬会員をもち、内容と執筆者を確
定し、早速刊行準備を進めようとして考
てあります。

申しますと、最も早いことです。年報は
会の生命でありますから、今後とも一
層の為支援を賜わりたく存じます。ま
た、年報会は、存じべく会員諸氏の意
向をくみ入れてゆきよく思りますので、
たゞお御意見をおなせ下さります
ようお願いいたします。

一宿題委員會報告

本二回半前半に於いて決定した今度の問題で、政治改革の相應社会に及ぼした三月二十日以來の「二十二回問題」が、三月三十日まで

(三) せして、このおまへの洋服の道筋が、何より、本題へは、農村におけるコミュニケーション System として最も重要な活動であると解するに足る。その意味で、農地整備会が問題にあること、いふに農村に対するアーバンシゼの正統性、その

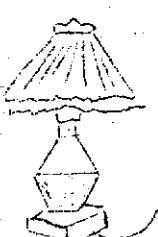
(三) せんじやの方面への本ほの運送が、荷物に付ける
Concentrication System にして、農業生
産の活動を完結するに至る。その意味で
農地委員会が問題になると、それは、
農村に於けるリーダーシップの生成とその
変動が如何に衝撃してくるかを注
視することなどが基本的であると受け取

ほらほり、その限りに到りてモニルは決して安易な問題ではない。しかしながら、從來の農村社會論にとって問題となる點から見て、丁度、農村における生産共同体とこれら村莊的機能などに局限して研究が進んでゐる。あるいは、農村社會論を agrarian organization としてのみ把握することに止められたところが原因で、そこへいくためには、決して無益では無いと思ふ。

(六) 併づいて、(一) 総合的研究の結果が、二の
うな結果研究にこゝで示して無力で
はなりことを知るべきである。地主
小作と「然く二分して表す」ことはよ
つて農地改革の顕実を説述と分析する
ことは、かなりなされてきたとしても、
地主内部または小作内部に多様な
ものがふくまれてゐるのであり、しか
も、それは、右にあげた三時期によつ

政治的立場關係その他のにみうれる材内指
導者とそれに関連するものとリラ等のそ
れの農地改革途上における農地委員会の
動向への反映のしかた(改革終了後に不
けるとの)農地委員たちの位置と改革の行
方というように二つの筋筋の段階に区分
して考へらるが、この三時期にわけて
指導者の出方の相違に問題がくされで
いるので併せからうか。しかし、このう
ちでも、とくに左側の主眼は農地改革
全上の時期、農地委員会におけるのはさう
までもあり

(五)以上のような問題は、の問題にして考へるだけでは決して解消されぬものではなく、行政村全体に対する視野がまず必要であり、さらにより大きな範囲に亘りて扱えられなければ



農業生産に障害構成の變化 リード

シラフの運動に注目すると共に、これに即して地主勢力に対する対立するものの

勢力について、それ／＼内省的分析を二つあるべきであらう。こゝにありて、

すでに相当の業績あげてきたと思われる

本家、分家、親子方、親族などに與する研究成績をさらに地主勢力の分析と

いう視点から再検討するべきである。

本家のそし地勢力や親分のもう支配

の複数あるのに、これらに知られる威儀

威儀をめぐる考え方、多くの場合の主

幹部の支持と無縁ではないと思ひ取ら

れる。今村の問題委員は、以上のことに

付する全員各位の意見の集つた方

○先に御連絡致しました年報の件につき
早速多くの方から御返事下さいました
ところも非常に多いござります。お

よせ下さった意図を以下に御報告しと
申します。皆様の御意見をたどり、完全な年報

にしてまいりたいと思ふのであります。

○田畠正夫氏（農業）今立の村落問題

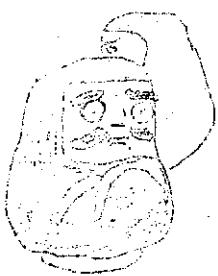
の主要事項として、今後問題的傾向ある
ものにはどうぞお目に掛かりたい。本部

としても非常によろしくお願います。お

よせ下さった意図を以下に御報告しと
申します。皆様の御意見をたどり、完全な年報

にしてまいりたいと思ふのであります。

○農業年報批判を賜り



日本農人



10 政党 11 宗教 12 貧困意識 13 人口
14 丸山田 整理は所謂大字より成るべく
新しき意味がある人

○山本省吾（大阪市立大）執筆者さえ老
い若美向題の一大塊はラレツ的にすき

西、セラナレしほつてほじい
○内山政販氏（農林省諺研）10政党と
農民と政治といひが、は農業問題より
は農村文化へとへんと見て、佔用地は

農林省と農村社会主義は今農地占領
問題との問題としてあらうが、問題は
又社会主義者農業者農業と農作地の活

躍と問題と並んで興味深い
○中野義久（神戸大城工大）3察山付け
機械の普及なら、実機の普及と農業の
技術とも、並び且て、耕作方法への改革
でも神道と民族の宿因性に付し着目す

る事は、本人大人アキラのや何の面で
問題、本人大人

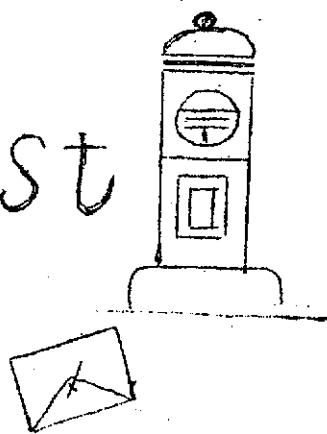
○森鶴源氏（東京農業大）この本は拙著、
約100頁の小冊子で、一冊半り良いが、現

在する問題を三つ取りて、その要とその解説、その原因
を盛り込んだものである。第一の本が實際的

で、もう一つは、本が、現状の問題を解説してある。
第三の本は、本が、問題を解説してある。

○木橋重次（大阪市立大）項目を「理論」と「方針」2種類（農村山村、漁村）

○多村義和（農業大）「漁村」原稿終了
○宗石清之（農業）8月8日付
○後藤和洋（農業）8月8日付



Post

卷之二

農山耕五つとして考へられて以來すが
農山耕五つを日々三分して考へる必要がある
ところには、何からうかと見ててその種類は
二つ種類構造を溝十種の正一一種類
の様な事例が二つ。尚農山耕五つに区别
つける評論は要するに算出が手本
開拓統計項目十一附記されると與ふ
ます。
少當耕種所などと申述される様ですが
会員名簿をみると会員は社員学者者多く
然りと多く數で才が多うや他の方面の
同志も入会していだけ様に一段と
一層捷進小耕所のことでせうが

聞きこの次か否かの富澤某は、年來位の程度になつて下り、當時實業が成程會掌事政の大數は野商居多加にておらず。二月件職は本總務所工事より内務省才3科要力調查をやり、十日調査完了後、一週間四月末の半度で十かまと玉手本部へたら即般告げたし、主事

農地改革關係文獻資料

宿題委員会の報告に因縁して、次第に
り農地改革法の义理を御教示を頼み
裁して行きたりと考えてあります。会員
諸氏よりお気付きの文稿につきまして
御一報下されば幸甚です。（松原宗師）
（実は本号より始めますので、用意致
しましたが、手遅れで、掲載されなくな
ってしまいました。）

少の感覚的理諭的方略の新舊名に日本本格的社會的經濟的發展するためニ三ノ優れた人材を育成し、
〇有智者たゞ門元東京教育大、農山は大見出しが多からばその内省固で
○桜田勝徳氏農村研究の展望と其題は農業制度の改革を大きく取上げて頂きた
〇八木恒高氏農業のものは右の如き人材
がうつし、右の事才、新舊名がて今後
貢献が丁度日本社会の如きとすれば不
明な人々を育て採用する事務所の如く所

